

Life Museum Network 2020

奥会津の方

ライフミュージアムネットワーク2020

連続 オープン デイ ス カ ッ シ ョ ン

最 終 回

12.19 (土) 14:00 ~ 16:00

kaneyama

第5回 奥会津をつなぐ

金山町自然教育村会館 (旧玉梨小学校)

福島県西部の山間地に広がる奥会津地方。豊かな自然環境は変化に富む景観と農産物を生み出し、自然に根ざしたくらしと文化を育んできました。また、只見川流域では川とともにくらしを営み、水力発電による首都圏へのエネルギー供給を支えてきたという歴史があります。奥会津を構成する5町村、三島町・柳津町・只見町・昭和村・金山町はそれぞれに何を大切にし、コミュニティを築いてきたのでしょうか。各町村の自然、歴史、文化を伝えるミュージアム関係者が対話を重ねることで奥会津の共通性、個性、課題を見つめ、対話のリーダーで大きな奥会津をめぐります。ぜひご参加ください。

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会

協力：三島町教育委員会、三島町生活工芸館、やないづ町立斎藤清美術館、只見町プラセンター、昭和村、金山町教育委員会
文化庁 令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

Life Museum Network

文化庁

榎本千賀子

新潟大学創生学部特任助教。写真家、アーキビスト。2016年より金山町の映像アーカイブ事業「かねやま「村の肖像」プロジェクト」に携わり、映像資料の収集・調査・活用に取り組む。専門は映像文化論。

栗城辰男

金山町玉梨地区在住。玉梨八町温泉開発組合の組合長をつとめ、平成23年福島・新潟豪雨災害によって被害を受けた共同浴場の復旧にあたる。地域に愛され、コミュニティを育ててきた共同浴場の管理運営を通じて、玉梨の歴史・文化を守り伝える。

栗城英雄

金山町山入地区在住。金山町横田公民館長。山入近隣会の一員として、一時途絶えていた山入歌舞伎を平成2年に復活させた。江戸時代から続く農村歌舞伎の保存、継承に尽力している。

板橋淳也

2019年10月より三島町教育委員会生涯学習課長。前職は三島町生活工芸館長。1970年代から継続している三島町の生活工芸運動を継承発展させ、「生活工芸アカデミー」の開設や手仕事が生まれる空間の再現として「工人の館」のオープンに尽力。

伊藤たまき

やないづ町立斎藤清美術館学芸員。茨城県陶芸美術館、会津若松市教育委員会勤務を経て、2017年より現職。専門は日本美術史。会津出身で世界的に活躍した版画家・斎藤清の作品を主要なコレクションとする美術館で、斎藤清の多様な側面をさまざまな切り口で捉え直している。

中野陽介

2012年より只見町役場に勤務。只見ユネスコエコパークの登録と関連事業に携わり、自然環境・野生動植物の保護・保全、学術調査研究に関する事業を担当する。専門は森林生態学。農学博士。

松尾悠亮

明治大学大学院文学研究科史学専攻日本史学専修博士前期・修士課程修了。2019年5月に昭和村からむし工芸博物館へ地域おこし協力隊として着任。現在、からむしや昭和村の歴史、奥会津の生活文化について勉強している。

五ノ井智徳

金山町教育委員会教育係長。金山町自然教育村会館(旧玉梨小学校)に収蔵している弥平民具コレクションの保存管理などを担当し、活用方法を模索している。

第5回

12.19(土)

奥会津をつなぐ

kaneyama

2020年12月19日(土) 14時~16時
会場：金山町自然教育村会館(旧玉梨小学校)(金山町玉梨1305)



芝居 横田小学校山入分校(推定)
1950年頃 中丸正臣撮影

第1部では、金山町玉梨地区のくらしに息づいてきた共同浴場や農村歌舞伎の文化、「村の肖像プロジェクト」によって収集された写真から地域の歴史や景観の変化、コミュニティのあり方について学びます。

第1部

講師：榎本千賀子氏(新潟大学創生学部特任助教／写真家、アーキビスト)

栗城辰男氏(玉梨八町温泉組合会長)

栗城英雄氏(山入歌舞伎保存会)



温泉清掃 玉梨 1958年
角田勝之助撮影 いがた地域映像アーカイブデータベース所蔵



庭の上の老婆とこども 川口
1950年代中頃(推定)

第2部

講師：板橋淳也氏(三島町教育委員会生涯学習課長／ライフミュージアムネットワーク実行委員会委員)

伊藤たまき氏(やないづ町立斎藤清美術館学芸員)

中野陽介氏(只見町役場地域創生課ユネスコエコパーク推進係主査／只見町プラセンター主任指導員)

松尾悠亮氏(昭和村からむし工芸館学芸員)

五ノ井智徳氏(金山町教育委員会教育係長)

モデレーター：川延安直(福島県立博物館副館長／ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)

定員：一般参加者 10名(要申込・先着順)
モニター参加者 5名(要申込・先着順)

※モニター参加者にご提出いただくレポートは、ライフミュージアムネットワーク Web サイト等にて公開・発表いたします。

参加費▶無料 申込方法▶電話か e-mail でお申し込みください。

*参加ご希望の方の ①お名前、②電話番号、③ご住所、
④一般参加かモニター参加か、についてお知らせください。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、内容に変更が生じる場合があります。

お申し込み・お問合せ

ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局

add 〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25
(福島県立博物館内)

tel 0242-28-6000 (福島県立博物館代表)

e-mail general-museum@fcs.ed.jp (福島県立博物館代表)

HP https://general-museum.fcs.ed.jp/page_about/archive/life-museum-network

ライフミュージアムネットワークとは

福島県立博物館は、2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故後、文化庁の支援を受けた「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト」「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」の事務局をつとめ、さまざまな文化芸術による復興支援事業を実施してきました。その過程で浮かび上がってきた課題は、福島、東北、被災地に限らず、日本各地に共通するものであり、解決方法を導き出すべく、広く共有されるべきものでした。それらの課題は【いのち】【くらし】に集約されます。これらは各地の博物館・美術館・資料館・記念館を含むミュージアムの活動の核となっているものであり、ミュージアムに限らず、さまざまな団体・機関も大切にしていることです。東日本大震災後、新たに浮上してきたミュージアムの使命。それは【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合うことと捉え、ライフミュージアムネットワークでは、同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張していきます。2020年度は、これまでの活動を継続するとともに、ソーシャルインクルージョン、地域資料の利活用とネットワーク構築、地域アイデンティティの再興を軸に、ライフ(いのち・くらし)に向き合うミュージアムの実践を行います。

主催：ライフミュージアムネットワーク実行委員会
協力：三島町教育委員会、三島町生活工芸館、やないづ町立斎藤清美術館、只見町プラセンター、昭和村、金山町教育委員会
文化庁 令和2年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

